

日々のあれこれ

iHola! 皆さんこんにちは。昨年の記事にも書きましたが、メデジンでは8月に花祭りという大きなお祭りがあります。町中が花にあふれ、全国・国外からも多くの観光客が集まります。今年も花祭りの時期がやってきて、街はお祭りムードです。コロンビアは季節がはっきり無いので時間の経過が分かりづらいのですが、8月のお祭りムードは日本と同じ時期なので分かりやすいです。活動期間中最後の花祭りも友人たちと楽しく過ごしました。日本に帰っても、美しい花の景色と共に何度でもメデジンを思い出すのだと思います。



○「PAISA」って？

私の住んでいるメデジン市で使われている言葉で、「地元の人」という意味です。2年間で私も「PAISA」の仲間入りしたいという想いを込めてこのタイトルにしました。

職員研修



8月・9月は、これまでで一番大きめの職員研修を実施しています。自己決定や障害のある人同士でのピアサポート、他部門との連携等をテーマにした研修です。メデジン市は日本で言う大阪市や横浜市のような大都市で、職員も専門性が高い方が多いです。その中で今の自分の能力・語学レベルで出来ること、配属先の人達や現地の障害のある方々のためになること、迷いや不安も多々ありましたが、配属先の人達に協力してもらい、一緒に考えて形に出来たことは私にとって自信になりました。「国際協力」は「助け合うこと」であり、相互のサポートがあるからこそその結びつきは強くなり、継続的なものになるのでは無いかと感じました。

花の国コロンビア

先日、メデジン市の近くにある切り花の輸出量世界第2位を誇る企業を訪問させて頂く機会がありました。この企業は障害者雇用に力を入れています。障害者だけでなく移民・LGBTQ+、ひとり親家庭等様々な背景を持つ方々の雇用に取り組んでいます。社員の方々が自社の取り組みに誇りを持っている様子がとても印象的で、コロンビアの、異なるものを前向きに受け入れて進んで行く国民性に、更なるインクルーシブ雇用の可能性を感じました。

PAISA

～コロンビア日記～

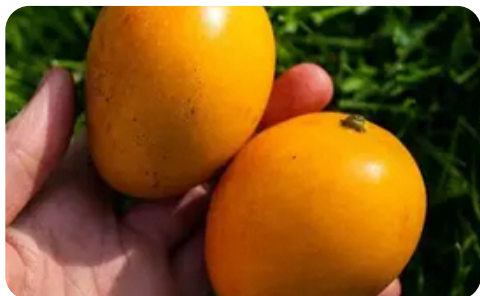
Vol.7

2026.8.12

板 華子



果物いろいろ



今回はメジャーなフルーツですが、マンゴーについて書きます。日本でも宮崎県での栽培が有名であったり、様々なスイーツに使われていますが、コロンビアでは100種類以上のマンゴーがあるそうです。私が特に驚いたのが、「マンゴー・デ・アスカル」（直訳すると「砂糖のマンゴー」）です。これはコロンビアを代表する固有種で、日本で売っているマンゴーの3分の1ほどの大きさで、驚くほど甘みが強いです。柔らかいので皮ごと食べる人が多いです。もちろん日本でも見かけると大きなマンゴーもあります。熟す前のすっぱいマンゴーを塩やレモン、チリと一緒に食べるのも人気で、私もこの食べ方が大好きです。



これはコロンビア料理で私が一番好きなサンコチョという、肉やイモ、青バナナ、トウモロコシ等を煮込んだ料理です。たくさんの食材の旨味が合わさって、たまらない美味しさです。日本のお雑煮のように、地域によって味付けや使う食材が違って、メデジンでは牛・豚・鶏の3種の肉を使ったものが人気です。主に休日、家族や仲間が集まる時に食べられる料理で、川辺で作って大勢でわいわい食べたりもします。「うちのが一番おいしい」というサンコチョ自慢のお母さんたちが大勢います。

コロンビア地震

コロンビア時間8月10日の朝、マグニチュード7.4の大きな地震が発生しました。メデジン市は震源地から150kmほど離れており、強い揺れは感じましたが市内は大きな被害はありませんでした。地震が少ないこの地域では、多くの人にとって初めての大地震で避難訓練も形式的にしかしておらず、皆さんパニックになったと言われていました。揺れの最中は、ホストマザーと抱き合って耐えました。国内多数の犠牲者が出ています。建物の耐震性が低く、病院や学校などの公共施設も含めて多くの建物が崩れ、多数の人が下敷きになっています。JICA関係の日本人の安否は確認されていますが、被害が大きい地域に住んでいる隊員もいて被災しています。まずは一人でも多くの命が救われることを祈ると共に、私の立場で出来ることを探して過ごしたいと思います。

板 華子（いた はなこ）

JICA海外協力隊

コロンビア・メデジン市役所配属

ソーシャルワーカー・鳥取県南部町出身